



# とらいあんぐる



2018 年 5 月

一音会ミュージックスクール発行

## 「愛された記憶」

皆さん、よくご存知のことですが、一音会が発行する新聞「とらいあんぐる」では、前半にエッセイ、後半のお知らせを載せています。

この号が、第 328 号になります。

私が第 1 号から書き続けてきたものではなく、第 1 号を書いたのは、私の母、江口寿子でした。一音会を創設した人です。

母が亡くなった 6 年前から、私、江口彩子が書かせていただいています。

ここにエッセイを載せる意味は、少

し分かりにくいかもしれません。

お知らせは、教室から生徒さんやご家族にお知らせしたい情報を載せるといふ分かりやすい目的があるのに対し、エッセイは「どうしてもなくてはならない」というものでもありません。

母が、エッセイを書きはじめた理由は、こうでした。

母は、本当は生徒さん全員に会って、お一人お一人とお話をしてみたいと、常々思っている人でした。ですが、それは物理的にムリでした。

そこで、一方的にはなりますが、「今、私はこんなことを考えているんです

よ」ということを、お伝えするために、エッセイを書くことにしたのです。

私が引き継ぎ、今、こうしてエッセイを書く身になってみますと、今、自分が何を考えているのか、改めてとらえなおすようになったことに気づきます。

自分の過去のできごとを思い出すことが増えました。先のことを考えることも増えました。

自分の感情の意味や理由についても、考えるようになりました。



そして毎月、エッセイを書く作業は、自分の心の中をのぞくような作業になります。

すべてを吐き出して、心の大掃除をするような作業になることもあります。逆に、またさらにいろいろと考えだすきっかけになってしまうこともあります。

書いてすっきりする月もあれば、書いてなお、深く考えこんでしまう月もあるのです。どのパターンになるかは、書いてみるまで分かりません。おもしろいものです。

自分の中から出てきたものなのに、自分の考えに、驚かされることさえ、あります。

ああ、私はこんなことを思っていたのか……。

それは普段、意識していない“本音”が、エッセイの中で飛び出してきてしまっているからなのでしょう。

母も、長い長い間、エッセイを書き続け、こうして自分の心と向きあってきたのだらうと想像します。

母のエッセイを、ある時、冊子としてまとめたことがありました。

生徒さんやご家族の方が、「エッセイだけ、保存版にしてほしい」「過去のものも含めて、まとめて読みたい」と、ありがたいことをおっしゃってくださったからです。

当時、お世話になっていた印刷屋さん、印刷、製本をお願いしました。

重版しなくてすむように、大量に製作してもらいました。

それが、「あなたが生まれた日」、「アンコール」、「青空」の3冊です。

母が突然、亡くなって、私はいつまでもふさがらない大きな傷を抱えているような状態になりました。

ふとしたことで、大きな痛みを感じ、のたうちまわります。そして、発作をおこしたように、号泣してしまいます。

泣かずに時間をすごすための方法は、母のことを思い出さないようにする、くらいしかありませんでした。

私は、そうして母のエッセイも、見ないように、読まないようにして、何

年も過ごしてきたのでした。

母の心の奥底にあったものが詰まったエッセイを読めば、6年前の苦しみに引き戻されてしまうと分かっていたからです。

ところがです。

読まなくてはいけない事態が持ち上がります。

あろうことか、「あなたが生まれた日」が、なくなってしまったのです。

重版しなくてすむように、あれほどたくさん刷ったのに！

思えば時間が経ちすぎました。ありがたいことに、購入する方はずっと途絶えることなく、少しずつ、在庫が少なくなっていました。

そして、とうとう1冊もなくなってしまいました。

刷らなくてはなりません。

いえ、その前に編集です。

かつて冊子を作成した時は、一音会は印刷機を持っていませんでした。

だから、印刷屋さんをお願いしたのです。

今は、一音会の中で、印刷することができます。その方がコストがかからず、ご希望の方にお安くお分けすることができます。

一音会の印刷機にあわせて、レイアウトも直さなくてはなりません。

だとすると、編集・・・。

想像するだけで、絶望的な気持ちになります。

私は母のエッセイを読むことができるのだろうか・・・。

いつか読まなければならなくなるにしても、もっともっと先であってくれば良かったのに・・・。

そう思いかけますが、思いなおします。

じゃあ、もっともっと先なら読めたのか・・・。

否、です。

きっと私は、何年経とうとも、読めなかったでしょう。

6年経って、無理なのですから。きっと死ぬまで読めない、いえ、読まないのです。

ここで読まなければいけない状況に陥ったことは、意味のあることなのかもしれません。

最初の号から、死ぬ直前の号まで、母が書いたすべてのエッセイを、10に等しく分割し、10冊の冊子にまとめなおしました。

タイトルをすべて「あなたが生まれた日」とし、1巻から10巻まで、カラー版で作成しました。

その作業の中で、すべてを読みました。

読む作業は、想像通り、たいへん苦しい作業になりました。その部分は省きます。

母は生前、「私は、遺言は書かない。この『とらいあんぐる』に書いたことを、私の遺言だと思ってちょうだい」といっていました。

その意味も、読んでみて、よく分かりました。

しかし、苦しい作業の中、1つだけ、嬉しいこともあったのです。

それは、嬉しい発見をしたことです。

母がとても愛され、幸せな子ども時代を過ごした人であったことを、あらためて知ったのです。

私がものごころついた時、母はすでに重い病に苦しんでいました。そして、それは母が亡くなる瞬間まで続きました。

こんなに不幸せそうな人を、ほかに知りません。

しかしエッセイの中には、健康で、屈託のない、ありふれた子どもであった母がいました。

私もよく知る母の両親は、当時、幼かった私の目から見ても、度をこして娘を愛する人々でしたが、エッセイの中でも、ありったけの愛情を母に注いでいました。

戦後、食べるものにも困るような時代に、すべてをなげうって、母が望んだ音楽の勉強をさせました。

母は、愛された人でした。

それを確認でき、私は少しだけ、満ち足りた気持ちになりました。

だから母は、あれだけ人を愛するこ

とができたのだと思います。

私にかけてくれた愛情も、生徒さんに対する惜しみない愛情も、原点はここにあった、と感じました。

また、大切にされたことが、母に自信を与え、強さを与えたように思います。

病で身体がボロボロになりながらも、力を奮い立たせて仕事にまい進できたのも、愛された記憶が、母を強くしたのでしょう。

私の子どもたちが、私のもとをはなれてしまう前に、これを読んでおいて良かった、と思いました。

お母さん、ありがとう。

良い遺言でした。

(江口 彩子)



## ◆ ピアノ発表会にむけて

新年度がスタートして、約1か月がたちました。新生活が軌道に乗り、生徒さんもご家族の皆さまも、ほっとされているところかもしれません。

教室も同様です。ここしばらくは、大きな行事のない、しずかな日々です。このしずかな日々は、夏の発表会にむけての助走期間でもあります。

生徒さんの中には、4月にピアノのレッスンをはじめたばかり、中には一音会に入会したばかり、という方もいらっしゃると思います。まだ曲らしい曲は1曲も弾けないのに、発表会?!と、どこかピンとこない方もいらっしゃることでしょう。

ですが、まだ時間があります。先生の伴奏で、すてきに仕上げることもできます。もしおうちの方がピアノをお弾きになれるのであれば、おうちの方との連弾で、ご出演いただくこともできます。かけがえのない思い出になるでしょう。ぜひご相談ください。

お歌をつけて演奏することもできます。発表会当日はピンマイクをお使いいただけます。歌いながら弾いてくださる生徒さんも、かわいらしくてすてきです。

大きな生徒さんの中には、忙しい日々の中、なかなか練習時間がとれず、発表会にむけて不安を感じていらっしゃる方もいるでしょう。担当の先生に、なんでも率直にご相談ください。相談しながら、無理のないように、進めていきましょう。

ピアノのレッスンを受けていらっしゃらない生徒さんも、リトミック発表で、ご出演いただきます。くわしくは、リトミックのレッスンの中で、ご案内いたします。



## ◆ リトミック発表のリハーサルをおこないます

夏の発表会は、ピアノ発表会ではありますが、主にピアノのレッスンをまだ受講していない小さな生徒さんを中心に、リトミックを発表する演目もあります。

小さな生徒さんが、動物さんにふんして、音楽にあわせて、おどったり、歌ったり、演技したりするリトミック発表は、一音会の発表会の“目玉”の1つです。今年の発表会、4日間のうち、リトミック発表は、8月4日（土）と8月5日（日）におこなう予定です。

練習は、リトミックのレッスンの中でおこないます。ふりつけやお歌を、おうちで練習していただくために、練習用のDVDを、おっってお配りいたします。もし可能であれば、おうちでDVDをごらんになって、練習してください。

また、当日のような広いところで、より多くのお友だちと、いっしょにやってみる経験も必要です。当日、びっくりしてしまわないためにも、ぜひリハーサルにご参加ください。リハーサルのレッスン料は発生しません。

リハーサルは、7月16日（月・祝）と、7月29日（日）です。時間は、おっってお知らせいたします。

2日ともいらっしゃれる方は、2日ともいらしてください。場所はいずれも、「ひびきホール」です。

「ひびきホール」は、西部池袋線「東長崎」駅、南口より徒歩7分、「まいばすけっと」の3階です。



## ◆卒業生の皆様のご活躍

卒業生の皆様のご活躍は、できるだけこの紙面でご紹介し、応援していきたいと思っています。今号では、4名の方の活動情報をお知らせします。

### ●反田恭平さん

2018年4月から放映されているテレビアニメ「ピアノの森」に、反田恭平さんが阿宇野壮介役で、ピアノを演奏されています。

NHK 総合：毎週月曜日午前0時10分～

### ●藤田真央さん

3rdアルバム「passage パッセージ」を、2018年5月23日にリリースされます。収録曲やレーベル等の詳細情報は、教室内のチラシをごらんください。

### ●近藤毬生さん

2018年6月2日（土）サロンプレイエルにて、ソロリサイタルを開きます。開演時間は18：30です。こちらも詳細は教室内のチラシをごらんください。

### ●平塚太一さん

指揮者である平塚太一さんが率いる「やたたフィルハーモニー管弦楽団」が、2018年6月23日（土）ティアラこうとう大ホールにて第3回演奏会を開きます。過去最大の編成です。13：30開演です。こちらも詳細はチラシをごらんください。

\*\*\*\*\*

\*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：[1000@ichionkai.co.jp](mailto:1000@ichionkai.co.jp)

電話：03-3954-9999

\*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

\*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。